

2017年度 臥竜塾年間講座 年間テーマ「文字・数・科学」 第1回「文字」①

第9号 2017年5月1日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢



2017年度臥竜塾年間講座開講

2017年度臥竜塾年間講座開講

臥竜塾年間講座とは、新宿せいが子ども園の職員が毎回テーマを設け、実施する講座のことです。今年は「文字・数・科学」をテーマに10回の実施が予定され、「文字」「数」「科学」それぞれ各3回の講座。そして、藤森先生と街中を散歩しながら保育のヒントを探す「ブラ平司」が行われる予定です。

また、受講者は昨年の20名から34名と増え、関東以外の園からは、長野・長崎・沖縄からの参加もあり、新たな1年がスタートしました。

講座参加園

【東京都】

さくらしんまち保育園 栄町保育園 新宿いるま保育園 長房南保育園
駒沢こだま保育園 光徳保育園 烏山いちご保育園 せいがの森保育園
大久保わかさ保育園 恵YOU保育園 第二いちご保育園

【埼玉県】

与野ひなどり保育園 朝霞どろんこ保育園 志木どろんこ保育園
いるま保育園 ふたば夢保育園 伊佐沼すまいる保育園

【神奈川県】

横浜六ッ川保育園 もみの木台保育園 岡田保育園 わくわくの森保育園

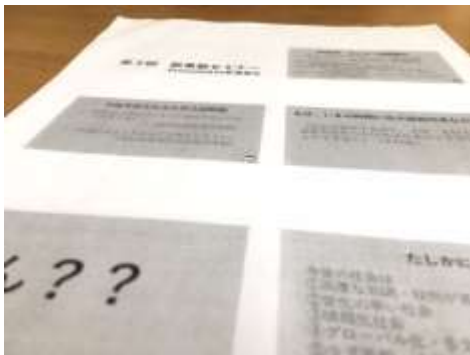
【長野県】 さくら保育園

【長崎県】 おひさま保育園

【沖縄県】 風のうた保育園



保育者のためのはじまりシリーズ
学習研究社 (2001/2/15)
藤森平司 著
本の内容を元に講義が行われました。



配布資料：巻末に資料を添付



著書の内容をステップごとに分け、
新宿せいが子ども園の事例を紹介

2017年度のテーマ趣旨

2020年にセンター試験は廃止されると言われています。そして、今後の大学入試問題では、下記のような問題が出題されるのではと、新宿せいが子ども園の藤森園長は言います。

- ・「知識は人間だけによって創られていくのであろうか」
- ・「永遠に生きられれば人は幸せだろうか」

文科省は「社会が激変するなか、大学、大学入試、高校が変わらなければ日本は生き残ることができない」と言っています。

そこで、センター試験もマークシートで答えられない問題に変わり、覚えた知識をどう活かすかといった問題にシフトしていくようです。

では、それは高校からでいいのか！？という問題提起から、乳幼児期における教育とは何かを深めていくため、2017年度の年間テーマが設けられ講座行われていきます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

平成30年4月から新保育所保育指針が施行されます。

第1章 総則

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

に下記の10項目が挙げられています。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同性 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活との関わり | ⑩豊かな感性と表現 |



新宿せいが子ども園 手作りおもちゃ遊びながら文字に親んでいます。



あいうえおトランプ作り
製作方法の説明風景



ワークショップに使う台紙

育てほしい姿と講座での学び合い

幼児期の終わりまでに育てほしい姿の⑦⑧⑨⑩は、講座のテーマ「文字・数・科学」に該当すると、新宿せいが子どもの西村先生は言います。

10の項目には下記のような解説が書かれています。

そしてこの⑦～⑩の項目を具体的な事例を通して学び合っていくのが今年度の年間講座となります。

⑦自然との関わり・生命尊重 → 【科学】

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にする気持ちを持つようになる。

⑧数量・図形、文字等への関心・感覚 → 【数】

遊びや生活の中で、数量などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。

⑨言葉による伝え合い → 【文字】

言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現 → 【文字】

生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。



あいうえおトランプ 遊び方事例
・50音神経衰弱
・50音ババ抜き
「ん」がjokerの代わりです。



講座参加者の皆さんによる制作風景

1 回目の講座を終えて思うこと

この講座のテキスト、『保育者のためのはじまりシリーズ』は2001年に出版され、現在は絶版で入手困難な一冊です。はじめてこの本を目にしたとき、「先生たちはこんなことを考えながら保育をしているんだ！すごい！」と感動しました。

そして、出版から16年経っても色あせない内容に驚くとともに、本の内容に沿って具体的な事例を発信することに意義を感じるのです。

保育所保育指針が改定されるこのタイミングで、全国を探して現場から教材作りを発信している団体は他にあるのでしょうか！？ここだけを切り取ってみても見ても、「すごい！」と思うのです。

同じ講座を受講しても各園で新たな発展を遂げ、それぞれの実践を学び合えるのは、この講座の醍醐味だと昨年1年を通して感じました。

また今回、新宿せいが子ども園の先生方はこんな準備をしていました。それは、年間講座の文字のテーマソングということで、GReeeeNの『あいうえおんがく』という曲を流してくれました。

フカシギで アラフシギね 「あ」から「ん」組み合わせ
口にしたり 文字にしたり 今日は何を話そう
世界の果て 起きることも 今日のゴハンのことも
君と笑い 時に泣いて 分かち合う為話そう… (歌詞：GReeeeN)

文字の講座を終えて歌詞に目を通すと、子どもたちが言葉に触れ、真似して、覚えていく。そんな情景が浮かびます。子どもがはじめて言葉を話すそれはきっと感動的なことで、私自身がはじめて発した言葉は何だったのだろうか？とそんなことを思います。

卒園までに育ててほしい姿、そして目の前の一つひとつの発達、そのどちらも見守っていくことが大事なのだと改めて感じました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山)

お問い合わせ先

株式会社カグヤ

東京都新宿区西新宿 3-2-11

新宿三井ビルディング 2号館 10階

tel:03-5909-7155

第3回 臥竜塾セミナー

Presented by 臥竜塾生

2020年 センター試験廃止

2013年、教育再生実行会議はセンター試験廃止を提言

2020年のセンター試験が廃止が決定。高大接続改革

- 高校…①学習指導要領の改訂
②高校基礎学力テスト（仮称）の実施
- 大学入試…①「大学入学希望者学力評価テスト」の実施
②各大学の個別入試も「思考力・判断力・表現力」を測るものに改革
- 大学…「求める生徒像」のほか、「どのような学生を社会に送り出すか」を整備する



今後予想される大学入試問題

- 「知識は人間だけによって創られていくのであろうか」

(2015年慶應経済学部)

- 「永遠に生きられれば人は幸せだろうか」

(2014年早稲田政治経済学部)



なぜ、いまの時期に高大接続改革なのか

「社会が激変するなか、大学、大学入試、高校が変わらなければ日本は生き残ることができない」(文科省)



ん???



たしかに…

- 今後の社会は
- ①高度な知識・技術が基盤となる社会
 - ②変化の早い社会
 - ③情報化社会
 - ④グローバル化・多文化共生
 - ⑤少子高齢・人口減少社会



これから必要な力

このような社会で、今後必要となる力は

- ・基礎的な知識・技能を習得し、活用する力
 - ・課題解決に協働できる力（異文化理解、協調性など）
 - ・表現力
 - ・思考力
 - ・主体性
- etc...



しかし！



これらは高校からだ遅い！

高大接続改革、学習指導要領の改定に伴い、幼児教育も見直さなければならない。

こども園、保育園で働く私たちが専門性を持ち、「教育」をやる必要がある。



乳幼児期の『教育』とは？

何かを教え込むことではなく、経験カリキュラムを基にした教育。遊びを通して、興味や関心を持ち、小学校以降の学習意欲に繋がるような環境を用意すること。



平成30年度からの保育指針

平成29年3月31日 新保育指針の公示
翌年4月1日より適用

第1章 総則

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項
(2) 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿

として、10項目が挙げられている



就学までに育って欲しい姿

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同生 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活との関わり | ⑩豊かな感性と表現 |



自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたり、大切にすることを覚えるようになる。



数量や図形、標識や文字などへの 関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



第3回臥竜塾セミナーでは、

【**文章・数・科学**】をテーマに行います！

新宿せいが子ども園における
文章・数・科学の環境をご紹介します。
みなさんと一緒に保育園に置けるものを作ったり
みなさんからのアイデアがあれば頂いたり、
お互いに勉強していきましょう！



4月「文字①」

若林・本多・加藤

こくごのはじまり



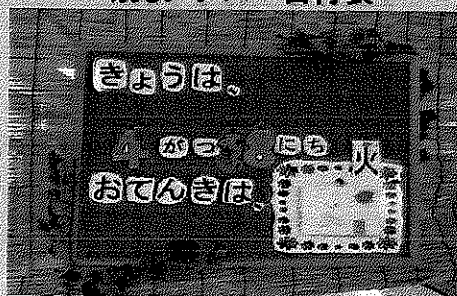
STEP1 「言葉に関心を持つ」

3～5歳の幼児は「これなあに?」「なぜ?」「どうして?」をよく聞きます。物の名前や見ている物事に強い因果関係を持つことが、言葉の獲得を促進し、2歳で300語、3歳で1000語、4歳で2000語、5歳で3000語、6歳で4000語、7歳で5000語、8歳で6000語、9歳で7000語、10歳で8000語、11歳で9000語、12歳で10000語の語彙増加が一般的です。

ゾーン名と誕生者ボード



幼児クラス 日付表



STEP2 「表現力をつける」

3～4歳になって言葉をたくさん覚えたら、こんな場面ではどんな話し方をしたらいいか、少しずつ自覚していくようにしましょう。日ごろの保育の中で、はっきりとした発音で言葉かけをして、子どもに答えさせる場面を多くつくってあげてください。それによって「言語感覚」が養われます。といっても難しいことではありません。

具体例

- ・お散歩中などの動植物の出会いの際に「あのお花きれいだね」「魚さん泳ぐの早いね」と声かけをしていく。
- ・朝の人数報告を職員室や調理室に「きょうのおやすみは〇人でーす」と伝えに行く。
- ・朝の会、帰りの会でのごあいさつ、食事前、食事後のごあいさつを

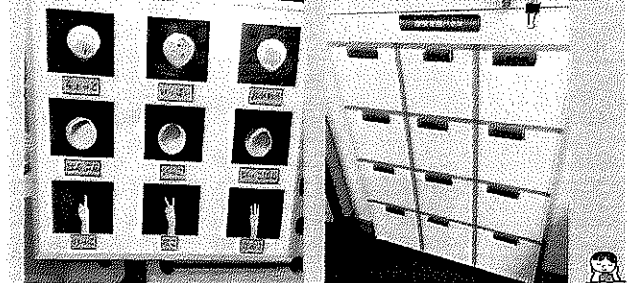
STEP3 「言葉を豊富にしよう」

言葉の習得には2つの側面があります。1つは、言葉の量(数)が増えること。日常生活での会話のやりとり、テレビ、本の読み聞かせなどによって増えていきます。3～4歳は特に顕著なので、この時期に多くの言葉と接するようにする。

もう1つは、使う言葉の範囲が広がることです。初めは自分の身近な事柄について話していたのが、「どこどこへ行って、何々を見た」とか、「そのとき、こんな気持ちだった」など、心理的な描写がなされたりしてきます。



数と量の表と感情表現パネル



「反対言葉あそび」

形容詞と動詞の対になる言葉を、名刺くらい大きさのカードに書き、15組ほど用意します。(字が読めない子がいる場合は、絵も描くとわかりやすい)

〈形容詞〉の例

おおきい⇒ちいさい ちかい⇒とおい

〈動詞〉の例

くつをはく⇒くつをぬぐ なく⇒わらう



STEP4 「言葉のリズム」

昔から伝わる手遊び歌やわらべ歌などは、知らず知らずのうちに言葉のリズム感や語感を養います。

手と手を合わせて歌ったり、とんだりはねたり体を動かして歌って遊ぶことは、言語感覚の基礎を養う上で、貴重な体験になるでしょう。

歌だけでなく、昔話や絵本にも、言葉の繰り返しやリズム感のおもしろさを生かしたものがあります。(例：はらべこあおむし)



動画①



動画②

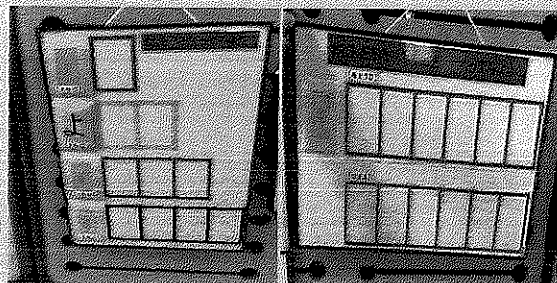


STEP5 「音節」

単語を構成している音の単位を「音節」といいます。例えば「いぬ」は、「い」「ぬ」という音節が合わさった2音節の言葉です。文字を書くようになると、音節を分解して、それぞれを文字に結びつけるようになります。例えば「いぬ」という言葉を「い」「ぬ」として、「い」「ぬ」と書くことと発音し、「い」「ぬ」と書くことを覚えるのです。

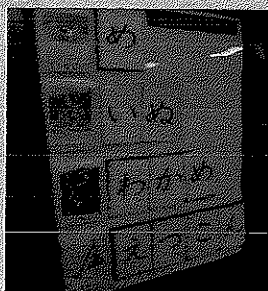


文字あそび



生臥竜塾ブログ

2014年8月13日
「えっこん」
by 小松崎高司



からだのなまえ

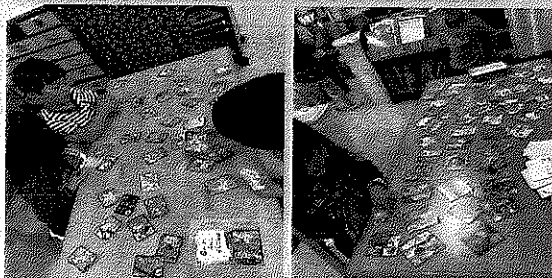


STEP6 「正しい発音をしよう」

音節ということがわかったら、次に、1つずつ音節を正しく発音してみましょう。音節の正しい発音は、「書き言葉」へ移行する準備となります。初めは「みつけた」を「みちゆけた」と言ったりする幼児特有の発音が聞かれますが、あまりきつく言ったりする必要はありません。少しずつ直していけばよいのです。何よりも、会話は楽しいことを経験し、進んで話に参加するようになることを優先しましょう。



「かるたとり」

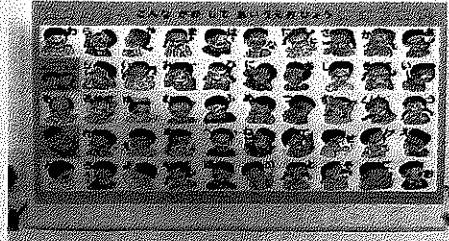


STEP7 「姿勢と口形が大事」

スポーツや習字や茶道などでは姿勢が大事だとよく言われます。言葉話すときも同じです。うつむいてぼそぼそ話すのと、背筋を自然に伸ばしてはっきり話すのでは、相手への伝わり方が違います。「あいうえお」の5文字は「母音」と呼ばれ、日本語の多くは母音を含んでいます。特に「い」と「え」、「う」と「お」の違いが明瞭に聞き分けられるか注意します。母音を含んでいる言葉を意識的に選んで、繰り返し発音してみましょう。



「こんなかおしてあいうえおひょう」



STEP8 「むずかしい発音の言葉」

- ・濁音 (濁った音) が行・ざ行・だ行・ば行
「さる」⇒「ざる」 「からず」⇒「ガラス」
- ・半濁音 (ば行)
「バス」 「ポスト」 など外来語によく見られる。
- ・促音 (つまる音)
「トラック」 「せっけん」 「さって」
- ・長音 (のばす音)
「学校」⇒「×ガッコウ」 「Oガッコウ」
- ・拗音 (ねじれた音)
「うんでんしゃ」 「しゅくだい」 「いしゃ」
- ・拗長音 (ねじれた長い音)
「ちょうちょう」 「きょうぎゅうしゃ」 「はくちょう」



STEP9 「文字の形を見分ける」

ひらがな、カタカナは、シンプルな直線と曲線の組み合わせでできています。それで、形の似た文字があります。「あ」と「お」などetc

文字を読むということは、文字で書き表された文の意味を読み取ることなので、一文字でも読み間違えると、意味が読み取れないことになります。文字の形の違いを見分ける目を養いましょう。

アメリカでは、幼児教育の段階で、文字を一種の図形と見て、見分ける力をつけます。



「もじトランプ」

